



早春に白い花が咲く。  
葉は三裂し荒い切れ込みがある。

### 食 ニリンソウ キンポウゲ科

和名は二輪草<sup>にりんそう</sup>。1株に2輪の花がつくので、この名がついたが、1輪や3輪の花がつくものもあり、林の中や沢沿いの斜面に群生する。

芽出し時期の葉は、トリカブト（猛毒）の葉の形に似ており、時に混生するため要注意。

#### 特徴

- 早春に白い花が咲く。
- 葉は三裂し荒い切れ込みがある。

トリカブトと混生していることがあるので、白いつぼみや花のついたものだけ採取しましょう。

根は横に走り、まばらにひげ根を出す。



根は縦に長くカブのよう形をしている。



秋に青～紫色の兜状の花が咲く。



いろいろな葉のトリカブトがある

### 毒 トリカブト キンポウゲ科

古来から有名な毒草。和名の烏兜<sup>とりかぶと</sup>は、花の形が雅楽のときにかぶる冠に似ていることからつけられた。ニリンソウの葉と似ていることから、ニリンソウと誤食した中毒事例がある。

このほか間違えやすい植物として、ヨモギ、モミジガサ、ゲンノショウコがある。

#### 特徴

- 秋に青～紫色の兜状の花が咲く。
- 葉には切れ込みがあり、様々な形状のものがある。

有毒部位：全草

有毒成分：アコニチン

中毒症状：口のしびれ、呼吸困難、心臓麻痺→死亡

※平成24年4月に函館市内でトリカブト（毒）とニリンソウの誤食による食中毒が発生した。  
平成31年に小樽市内でトリカブト（推定）による食中毒が発生した。



若い葉は全面に白綿毛をかぶるが、育つと表面は緑色になって、裏面だけに白毛が残る。(この毛を集めたものがモグサ)

### 食 ヨモギ キク科

草餅やモグサの原料として昔から親しまれてきた野草。山野一帯の日当たりのよい所に生える。夏に茎の先に茶色の小さな花が群がって咲く。若葉はトリカブト（猛毒）と似ているので注意が必要である。

#### 特徴

- ヨモギ特有の強い香りがする。
- 若い葉は全面に白綿毛をかぶる。
- 育つと表面は緑色になって、裏面だけに白毛が残る。



※平成24年6月に三笠市内でトリカブト（毒）とヨモギの誤食による食中毒が発生した。



### 毒 フクジュソウ キンポウゲ科



早春に美しい鮮黄色の花をつける。

早春に咲く縁起植物として栽培の歴史は古いが、有毒である。林の中、沢の傾斜地などに生える。花の終わった後に伸びる葉はシャクと似ており、また、芽出し期のフキノトウにも似ているため要注意。

有毒部位：全草、特に根  
 有毒成分：シマリン、アドニトキシン  
 中毒症状：おう吐、呼吸麻痺、心臓麻痺→死亡



葉のつけ根に白色のさや  
(はかま)をつける。

### 食 シャク セリ科



花の咲く時期は  
5月下旬～6月上旬

高さ1～1.5mになる多年草で、茎は中空で水分を含んでもろい。平地～山地の湿気のあるところに群生する。セリとミツバを合わせたような香りと味がする。ニンジンの葉に似ているので、ヤマニンジンの別名がある。花の終わった後のフクジュソウ(毒)とも似ているため要注意。

#### 特徴

- 葉のつけ根に白色のさや(はかま)をつける。



花の咲く時期は7月



茎に紫色の斑紋がある。

### 毒 ドクニンジン セリ科

ヨーロッパ原産だが、帰化して野生化している二年草。乾燥地に生え、高さは1.5m以上になり、折ると特有の不快なおいがる。ニンジンの葉に似ており、有毒であることからこの名がついた。札幌市内等にも自生しているので、注意が必要である。

#### 特徴

- 茎には紫色の斑紋がある。
- 特有のにおいを有する。

有毒部位：全草

有毒成分：コニイン

中毒症状：中枢神経興奮、運動麻痺、呼吸困難→死亡

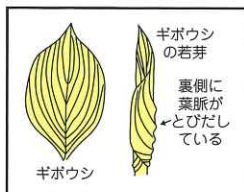
※平成9年4月にドクニンジン(毒)とシャクの誤食による食中毒が札幌市内で2件発生した。



### 食 ギボウシ ユリ科

日当たりの良い湿地に群生する多年草。

ウルイの名で親しまれている。バイケイソウ（毒）はかじると苦味があるが、ギボウシには苦味がない。



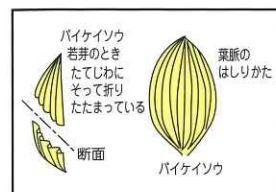
### 特徴

- 葉は根元から出て長い葉柄があり、茎に直接葉はつかない。
- 葉の先はとがり、太い葉脈が中央にあり、そこからふちに向かって脈が分かれている。
- 葉脈は、葉の裏面にくっきりとび出して見える。



### 毒 バイケイソウ ユリ科

湿地に群生する多年草。芽だし時期、ギボウシの若芽やギョウジャニンニクに似ており、間違えて喫食した食中毒がある。



### 特徴

- 葉は茎を囲むようにつき、柄はなく、葉脈は葉の基部から先に向かって伸びる。
- 葉は大きく、茎に互い違いについて先端はとがる。

有毒部位：全草、特に根

有毒成分：ベラトラミン、ジェルビン

中毒症状：口のしびれ、血圧低下、めまい、心不全→死亡

※平成28年4月にバイケイソウ（毒）とギョウジャニンニクの誤食による食中毒が下川町で発生。